全国で工作船保存運動

「海の貢献賞」を受賞
副賞から70万円を寄付

工作船保存にと寄付をした山川保安署長（左）と平江主計士

山川保安署長
平江主計士

全国的に工作船保存運動が展開されている。海上保安庁職員の努力が浸透し、自治体・企業などの理解が高まり、個人からの寄付も続いている。

山川保安署巡視船「ともえ」事件の際、名瀬保安部巡視船「あまみ」に乗っていた平江主計士は、昨年、社会貢献支援財団「海猿」（財）が主催する「海の貢献賞」の副賞の70万円を寄付した。

平江主計士は平成13年12月に発生した「能登半島沖不審船事件」の際、名瀬保安部巡視船「あまみ」に乗っていた。

「あまみ」が攻撃を受ける極めて危険な状況にもかかわらず、冷静にヒアホン無線で船内の状況を伝え続けた。この工作船の犯人逮捕の様子が、マスコミ各社を通じて全国に報道され、海上保安庁の評価を高めた。

平江主計士はこの功績で、海上保安庁長官賞などを受けている。今回は外部団体から個人賞を受賞した。第3部門（特定分野の功績）の「海の貢献賞」で、副賞100万円を贈られた。

授賞にあたって平江主計士は「日ごろの訓練とチームワークの成果だと思っています。あのような危険な状況の中で、ビデオを持っている余裕はなかったが、状況を映像に残さなければと、使命を感じました。これによって、海上保安庁の勲章授章の正当性が証明できた思います」と語っている。

また、「副賞の中から、海から我が国に迫る危機を明らかにした。

平江主計士はこの功績で、海上保安庁長官賞などを受けている。今回は外部団体から個人賞を受賞した。第3部門（特定分野の功績）の「海の貢献賞」で、副賞100万円を贈られた。

授賞にあたって平江主計士は「日ごろの訓練とチームワークの成果だと思っています。あのような危険な状況の中で、ビデオを持っている余裕はなかったが、状況を映像に残さなければと、使命を感じました。これによって、海上保安庁の勲章授章の正当性が証明できた思います」と語っている。

また、「副賞の中から、今治、新居浜両支部は、愛媛県の東予地区における、河野・村上水軍の昔から海運業に密接な関係があり、造船業などの地場産業が発展している地域である。

今治市では、市制施行50周年を記念して、平成15年に「今治造船ドック」が完成。同ドックは、世界最大級の船舶建造能力を有しており、今治造船グループの造船業の発展に大きく貢献している。

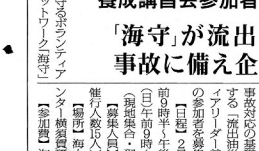
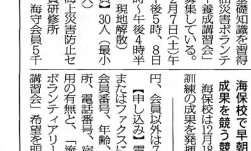
今治市は、造船業の発展を願い、市民の海事思想の普及啓発を図るため、平成15年に「今治市海事センター」を開設した。

同センターでは、海事に関する資料の収集・展示、海事思想の普及啓発のための講演会・講習会の開催、海事センターだよりの発行などを行っている。

「TOEIC570点以上の成績優秀者に褒賞授与」
海保大

海保大は1月5日、TOEIC成績優秀者への褒賞授与を行った。TOEICの成績優秀者として、本科2学年・宮本元気学生（575点）、教務部長褒賞、本科3学年・中津山明宏学生（690点）、教務部長褒賞、本科4学年・冨田敏明学生（690点）、教務部長褒賞、本科4学年・小松大祐学生（675点）、教務部長褒賞の計6人。

褒賞を授与された佐藤研修生

校長と指導教務部長から賞状と賞金が授与された。

海保大では、本科学生の学習意欲向上のために、15年度から英語力リキュラムを大幅に変更、TOEICの成績を単位に反映させるなどして、学生の英語能力向上のための積極的な取り組みをしている。

現在、本科在校生1,630人のうち、TOEIC500点以上は35人。今回の褒賞を機に、学生は英語能力の向上を目指す。（海保大）

ボランティアリーダー養成講習会参加者募集
「海守」が流出油事故に備え企画

海と自然を守るボランティアの情報ネットワーク【海守】は、海上災害防止センターの協力で、流出油事故の際にボランティアが活動する環境を整えるため、流出油事故対応の基礎知識を習得する「流出油災害ボランティアリーダー養成講習会」の参加者を募集している。

【日程】2月7日（土）午前9時半～午後5時、8日（日）午前9時～午後4時半

【開催場所】現地集合・現地解散

【募集人員】30人（最小催行人数5人）

【場所】海上災害防止センター横浜研修所

【参加費】海守会員5千円、会員以外は7千円

【申し込み】電子メールまたはファクスに、氏名、〒住所、電話番号、宿泊施設利用の有無を、「流出油災害ボランティアリーダー養成講習会」希望と明記の上、申し込み先へ。

【申し込み先】電子メール info@umimori.jp

【締め切り】1月26日。申込多数の場合は抽選。参加者には別途連絡。

端艇で競う海保校の学生

海保校で早朝訓練の成果を競う競技大会

海保校は1月18日、早朝訓練の成果を競う競技大会を開いた。

特に、端艇・剣道・逮捕術は5人1チームの団体トーナメント形式で戦い、各チーム合わせた総合点で優勝を決めた。

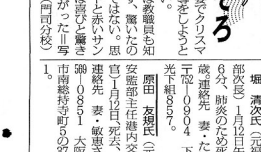
端艇は、「ともえ」「あまみ」「しきしま」「みうら」の4チームが、それぞれ1,000メートルを漕ぎ、タイムを競った。

剣道・逮捕術は、総当たりリーグ戦で勝敗を競った。

大会を盛り上げたのは、端艇（柔道・剣道・逮捕術）・端艇（800メートルと1,000メートル）の各種目で熱戦を繰り広げた。

「負けるな」「もっと漕げ」「逃げるな」などの声援が飛び交う中、選手たちは全力を出し切っていた。

試合は、第9分隊が総合点455点、平均72点で優勝を手にした。（海保校）



理解できた裁判の流れ

田邉義博研修生の感想（要旨）　本物の法廷を見れる機会はめったにない。そして被告人の態度にも、裁判官の言い回しにも、すべてに興味を感じ取ることができた。

弁論が続き、そして判決が出た。判決文で言い渡される刑は軽いという印象となり、実際の刑よりも理解できて、いい勉強になった。

空き時間が多くあるため、公判担当の検察官と話す機会に恵まれ、いろいろな話を聞くことができた。

裁判官は、「審理を尽くして判決を書いた」と言っていたが、その判決の内容を聞いて、我が子の判決を聞くために来た親御さんが涙を流されていたのが忘れられない。

初任者課程研修生が刑事裁判を傍聴

門司分校

門司分校の船艇職員等初任者課程研修生24人は12月4、5の両日、2班に分かれ、福岡地裁小倉支部で公判前の刑事裁判を傍聴した。

刑訴法の授業の総仕上げとして刑事裁判の実態に触れることで、司法警察職員としての自覚と捜査に対する理解を深めるのが目的で、研修生各自が事前に公判前の被疑者の勾留質問や、起訴状朗読から閉廷までの一連の流れを学習した。

研修生は法廷で傍聴メモをとり、証拠の採否や検察官と弁護人との攻防を聞いた。

傍聴した事件は、被疑者が5人の共犯者と共謀して、覚せい剤を密輸しようとしたとして、覚せい剤取締法違反（営利目的輸入）などの罪に問われた事件などの人定質問や起訴状朗読から、判決までの一連の流れを傍聴